

情勢報告

安芸農業振興センターの取組が生産局長賞に輝く！ー農業普及活動高度化全国研究大会ー



大臣官房生産振興審議官から生産局長賞を授与される新田主任(環境制御普及推進担当)
(一社) 全国農業改良普及支援協会 提供

11月18～19日、全国の農業革新支援専門員や普及指導員、関係機関からのべ1,300人が参加し、東京都ニッショーホールで第3回農業普及活動高度化全国研究大会が開催されました。

全国から選ばれた普及活動のうち、特に創意工夫・改善や独創性に富んだ7つの優良事例の中から農業改良普及課が発表した「安芸地域における飛躍への挑戦！限界収量突破を目指す農家グループの育成と支援くナスでの取組成果を中心として」の取組が見事「農林水産省生産局長賞」に輝きました。

環境制御技術の普及を通じて攻めの農業への転換を図った活動が高く評価され、審査員からは「成果をフィードバックするのではなくフィードフォワードしている活動が素晴らしい！」との講評をいただきました。

農業改良普及課は、今回の受賞を励みに今後も産地の活性化に全力で取り組みます。

収量アップに向けて準備は怠りなく！ 中芸地区で環境制御技術勉強会を開催



技術の導入を検討中の生産者も熱心なまなざしで炭酸ガス発生装置をチェック！

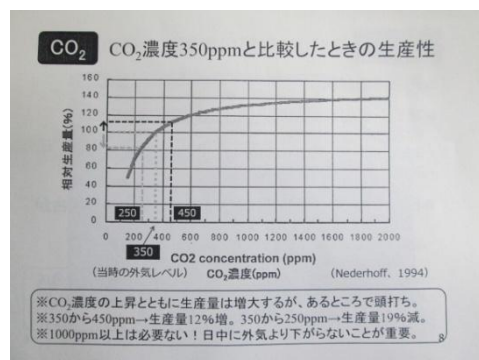
中芸新施設園芸研究会は10月21日に環境制御技術勉強会を開催し、14人が参加しました。環境測定装置と炭酸ガス発生装置を導入した中芸地区の農家のほ場を巡回し、農業改良普及課はCO₂センサーの校正方法や環境測定装置の活用方法について指導しました。

また、換気量が多い時期の炭酸ガス施用方法を中心に環境制御技術のポイントについて講義を行いました。

生産者は機種による違いや設置方法、環境制御装置導入後の管理について、工夫していること等を活発に情報交換をしました。

今後は、厳寒期の炭酸ガス施用方法や植物の生育に応じた栽培管理方法等について現地検討会や個別巡回で周知を図り、収量アップにつなげます。

高収量を目指して～芸東地区環境制御技術勉強会開催～



勉強会資料一部

(炭酸ガス濃度の光合成能に及ぼす影響)

11月11日、芸東地区環境制御技術勉強会がJ A土佐あき羽根事業所で開催されました。環境制御装置を導入予定または検討中の農家を含めて12人の参加があり、また栽培作物もナス、キュウリ、ピーマン、シシトウと様々なメンバーとなりました。

農業改良普及課の環境制御普及推進担当は講義の中で、植物の光合成能力をアップさせる環境づくりに何ができるか、の視点で様々な提案を行いました。生産者の反応も良く、「シシトウでは日射量と樹勢に応じた温度管理をどうすればいいのか」「天窓センサーの位置はどこにすればいいか」等、具体的な質問が次々と出ていました。

農業改良普及課室戸支所では、今後も環境制御装置を導入したほ場をきめ細かく巡回し、高収量につながるよう指導していきます。

情勢報告

女性ナス勉強会（平成 28 年度第 1 回）を開催！



炭酸ガス局所施用及び日射比例かん水制御ほ場の紹介に熱心に耳を傾ける参加者

10 月 29 日、安芸集出荷場園芸研究会は第 1 回女性ナス勉強会を開催し、7 人が参加しました。勉強会では 11 月以降の基本的な栽培管理として、J A はかん水施肥や整枝・摘葉管理を説明しました。農業改良普及課は病害防除について講義するとともに、日射比例かん水制御や炭酸ガス局所施用を行っている安芸市の 3 か所のほ場で生育診断法やこれらの導入技術について紹介しました。参加者からは「生育診断が理解できた」「かん水の自動化は便利でいいね、うちもやりたい」「家族と相談して今後は炭酸ガス施用も考えたい」との声が聞かれました。

農業改良普及課は今後も女性ナス勉強会の開催を呼びかけて、ハウス栽培の知識と栽培技術の向上を図ります。

東洋町農業研究会現地検討会が行われました！



情報交換をする生産者

11 月 13 日に東洋町農業研究会ナス部会現地検討会が実施されました。生産者 9 人が、ほ場 2 か所を巡回し、仕立て方法や病虫害管理を勉強しました。

農業改良普及課は炭酸ガス発生装置を導入していないハウスの炭酸ガス濃度や、炭酸ガスを施用した場合の増収効果などを比較しながら、環境制御技術や温度管理等について情報提供を行いました。その後、生産者は環境制御技術の効果やコストなど、自らの経営も含めて話し合いました。

農業改良普及課は、今後も生産者に対し収量増加や品質向上につながる情報提供をしていきます。

悩み相談なんでもどうぞ！営農相談を開催



営農相談の様子

農業改良普及課は J A と協力し、芸西集出荷場で生産者への情報提供や情報共有を目的に、10 月から営農相談を開催しています。

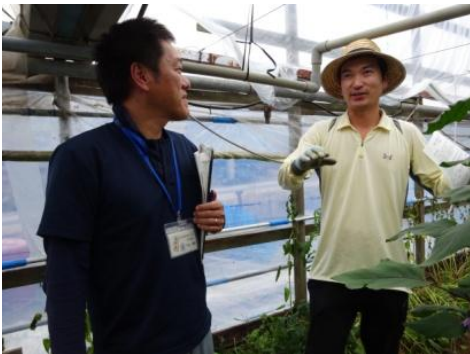
11 月 13 日には 2 回目の営農相談を開催し、ナス生産者 42 人、ピーマン生産者 8 人に厳寒期の栽培管理、かん水方法、病虫害防除方法について情報提供を行いました。

中でも硫黄粉剤による病害の予防効果への関心が高く、営農相談後すぐに J A 資材センターで散粉器を注文した生産者もいました。

農業改良普及課は、今後も J A と協力しながら毎月の営農相談で生産者と情報共有を行いながら、収量増、品質の向上につながる情報を提供していきます。

情勢報告

芸西地区で個人出荷の農家を巡回しました！



力説「僕はこうゆう考え方でやりゆうがよ」

11 月 6 日、9 日に、ＪＡ土佐あき芸西支所営農指導員と連携し、個人出荷のナス農家 20 戸を巡回しました。情報提供や交流の場となる勉強会の開催に向け、「まずは個人出荷農家の意見を聞いてみよう」とハウスを訪問し、意見を聞きました。

農家からは「勉強会があると情報が取れる」「会をやっても忙しいから皆来ないのでは」「補助事業の情報などは伝わりにくい」など、様々な意見を聞くことができ、どのような情報をどう伝えるかの参考となりました。

今後は、勉強会開催などを計画し、個人出荷の農家への情報提供に努め、経営安定に向けた指導をするとともに、系統への誘導も促します。

農薬メーカーと連携してチャノホコリダニ対策を実施！！



現地の状況を確認する
農薬メーカー担当者と生産者

今年は、安芸市穴内地区の施設ナスで難防除害虫のチャノホコリダニの発生が多く、深刻な被害がでているほ場がみられました。そこで、農業改良普及課は被害の大きな生産者のほ場で、10 月中旬から農薬メーカーと連携して防除対策に取り組み、11 月 5 日に生産者、農薬メーカーと防除効果の確認を行いました。生産者からは「繰り返し農薬散布をしても被害が止まらず困っていたが、指導を受けて被害が止まってよかった」と話がありました。

農業改良普及課はこの成果を部会で他の農家に周知するとともに、今後もＪＡや農薬メーカーと連携して病虫害防除の指導、情報提供を行っていきます。

唐浜集出荷場ピーマン部会が目慣らし会・現地検討会を開催



目慣らし会の様子

11月12日、唐浜集出荷場研究会ピーマン部会が目慣らし会・安田町で現地検討会を開催し、生産者 6 人が参加しました。

目慣らし会では各生産者の果実の大きさや赤色の着色程度を見比べ、出荷規格を確認しました。農業改良普及課はチャノキイロアザミウマ対策等について情報提供を行いました。またＪＡからは病虫害防除について、資材メーカーからは新規登録農薬の説明がありました。生産者からは「薬剤散布による天敵への影響は？」などの熱心な質問があり、病虫害防除や生育状況について活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後もＪＡ等と連携しながら勉強会等での情報提供を行いながら部会活動を支援していきます。

情勢報告

オクラ部会で農薬勉強会



オクラ部会で残留農薬の勉強中

11 月 6 日、9 日に J A 土佐あき中芸支部オクラ部会は、中芸地区で栽培講習会を開催し、35 人の出席がありました。

農業改良普及課からは、農薬の残留、農薬登録のしくみ、ドリフトと対策など、オクラ栽培における農薬を取り巻く課題について講習しました。生産者からは「一人の農薬事故は全員に迷惑がかかるので、気をつけて栽培する」など、改めて使用基準をしっかりと守って農薬散布するための動機付けになりました。

農業改良普及課は食の安全安心に向け、今後も農薬を正しく理解し適正な使用を指導していきます。

中川内小学校で花育体験授業が行われました！



出前授業の様子

11 月 12 日に室戸市立中川内小学校 1 ～ 6 年生 12 人を対象に花育体験授業が実施され、花のアレンジ体験と室戸市の花についての授業を行いました。

農業改良普及課は室戸市で栽培されている千両について、栽培の様子や全国でも品質の高い産地であることについて説明しました。授業は一部クイズ形式で行い、室戸で栽培される主要な花当てクイズには多くの児童の手が挙がるなど活発な授業ができました。

農業改良普及課は、今後も小学生が地元の農産物を理解し興味を持ってもらえるよう授業を行っていきます。

新たな集落営農組織の設立に向けて（奈半利町）



意見交換をする参加者

10 月 22 日に奈半利町と J A 土佐あき、農業改良普及課が連携して奈半利町百石地区の農業者 13 人に集落営農の説明会を開催しました。

奈半利町役場は奈半利町の農業と地域の現状について、農業改良普及課は最近の水稻・水田の動きを中心に集落営農の必要性を説明しました。また、集落営農の取組を具体的にイメージしてもらえるよう、DVD で県外の先進地の取組を紹介しました。

その後、ワークショップで「農地」「機械」「担い手」「文化」の項目について意見交換をしました。

ワークショップでは、「農機具が高い」「機械が壊れたら農業をやめたい」等の意見が出ました。今後さらに意見を出し合い、課題や対応策等について検討していきます。

農業改良普及課は、これからも奈半利町、J A 土佐あきと連携して、集落の意向を聞き取り、集落営農を推進していきます。

情勢報告

新たな集落営農組織の設立に向けて（室戸市）



説明会の様子

10 月 28 日に室戸市と農業改良普及課が連携して佐喜浜町小山地区（15 戸）の住民 14 人に集落営農の説明会を開催しました。室戸市は人・農地プランを主体とした農業の取組を、農業改良普及課は室戸市農業の現状と将来のシミュレーションを説明しました。また、県外の取組みをDVDで紹介し、地域の農地・農業を守っていく方法の一つとして集落営農を理解してもらい、意見交換をしました。

最後に参加者全員に記名でアンケート調査を実施しました。アンケートは室戸市が集計・分析して、年内に2回目の説明会（報告会）を開催します。

農業改良普及課は、これからも室戸市と連携して、年度内に新たな地区で集落営農の説明会が開催できるように取り組んでいきます。

直販所「あいあい広場」が魅力ある店舗に変身?! ～店舗レイアウト・POP研修会～



効果的なPOPの書き方の実践研修

11月17日にJA土佐あき奈半利支所直販所「あいあい広場」では、高知県農林水産物直販所支援事業を活用し、店舗のレイアウトやPOPの書き方研修会を行い、直販所の担当者6人が受講しました。

店舗レイアウトについては、入口の目につきやすい部分がデッドスペースになっているため、かご等を利用して中高になるよう実際に商品を動かしながら置き方の工夫等を研修しました。

また、POPについては、消費者目線で書くことの大切さを学習し、全員でPOPを作成しました。今後は、生産農家のこだわりを聞き取りPOPづくりに活かすことで意見が一致しました。

農業改良普及課では、直販所の販売額向上に向けて様々な視点から支援していきます。